

実践⑤ 三島村立三島片泊学園「片泊かめんで文庫」(鹿児島郡三島村)

1 はじめに

三島片泊学園は、三島村の最西端、黒島の北西部に位置し、枕崎市の南西約58km、鹿児島湾からは海路約150kmの距離にあります。児童生徒数21人の極小規模校です。令和二年度に小中併設校「片泊小中学校」から子供の成長を連続して支える義務教育学校「三島片泊学園」に生まれ変わりました。

「片泊かめんで文庫」は、県の取組であった「本も友だち20分間運動」を受け、子供たちに豊かな言葉を学ばせるとともに、感性や想像力、考える力を育てていくことで、よりよく生きる力を身に付けさせたいとの願いから平成11年に発足しました。現在は、未就学児から大人まで合計56人で活動しています。



2 活動の内容

(1) 本友運動(本も友だち20分間運動)



月1回、地区のコミュニティーセンターに集まり、各自準備した本を20分間読んだ後、担当となった会員が「おすすめの本」を紹介するという活動を行っています(毎月第2水曜日の午後6時30分から)。静けさの中で本を読んだり、新たな本を知ったりする機会になっています。

(2) 夕読み・作文発表



月2回、午後6時から三島村役場片泊出張所の防災無線を活用して、1～4年生は教科書の音読、5～9年生は自作の発表を行っています。子供たちの元気な声が響き渡るこの時間を地区の方々も楽しみにしています。また、そのことが子供たちの励みにもなり、読む力の向上につながっています。

3 今後の計画や展望

島内には書店や公共図書館がないため、本を知る機会が少なく、読書の幅を広げづらいといった課題を抱えています。「片泊かめんで文庫」では、学校と連携しながら読書習慣を身に付けさせるとともに、多くの本に触れる機会をつくることを目指し、二つの活動を続けてきました。今後は、これらの活動を更に充実させるため、学校や行政と協力しながら、地区の図書コーナーや家庭読書の充実を進めていきたいと思えます。

4 おわりに

本活動は、多くの子供たち、保護者、地区の方々、先生方が21年に渡って関わり、育ててきた活動です。今では、片泊地区の行事の一つとして溶け込んでいます。これからも岩にしっかり付く「かめんで」のごとく、じっくりと腰を据え、同じ空間で仲間と心地よい読書の時間を共有し続けていきます。